

令和 2 年 6 月 10 日現在

機関番号：13601

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2016～2019

課題番号：16K21071

研究課題名(和文)戦後アヴァンギャルド芸術における協働と影響の研究 草月を軸に

研究課題名(英文)A Study of Collaboration and Influence in Postwar Avant-garde Art: Focusing on Sogetsu

研究代表者

友田 義行(Tomoda, Yoshiyuki)

信州大学・学術研究院教育学系・准教授

研究者番号：40516803

交付決定額(研究期間全体):(直接経費) 3,000,000円

研究成果の概要(和文):一般財団法人草月会の協力を得て、第二次世界大戦後の日本におけるアヴァンギャルド芸術運動について資料調査を進めた。映画監督・勅使河原宏が制作に関わった未公開フィルム『草間彌生』『熊谷守一』と実験映画『フィルム・モザイク』をデジタル化し、視聴可能な状態にした。また、草月会所蔵の資料『われらの時代(仮題)』から、ドキュメンタリー作家・土本典昭と勅使河原宏による協働の実態を明らかにすることができた。刀根康尚ら音楽家によるオーラル・ヒストリーの記録にも寄与した。ほかにも文学と映画をはじめとした芸術運動における協働と影響の関係を詳らかにし、言語・映像テキストを横断的に分析する研究論文を成果として発表した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

戦後日本の前衛芸術運動における協働と影響関係の実態がより明らかになった。また、これまで視聴困難だった映像作品をデジタル化したほか、芸術運動に関わった芸術家たちのオーラル・ヒストリーを活字化する企画にも携わった。こうした成果により、複数の研究領域に貢献できる作品や歴史資料を提供することが可能となった。いくつかの言語・映像テキストについては自ら分析を行い、様々な観点から考察を加えた。以上の学術的意義に加え、勅使河原宏らが制作に関わった前衛芸術作品を、文化的資源として広く発信できるようになった点に、社会的意義が見出される。

研究成果の概要(英文):With the cooperation of the Sogetsu Foundation, I have been researching materials on the avant-garde arts movement in postwar Japan. I have digitized director Teshigahara Hiroshi's unreleased films Kusama Yayoi and Kumagai Morikazu as well as the experimental Film Mosaic, rendering them viewable. I have also been able to clarify the status of the collaboration between Teshigahara and the documentary maker Tsuchimoto Noriaki, based on Warera no Jidai [Our Times] (tentative title) from the Sogetsu Foundation's holdings. I have also contributed to the transcription of oral histories by Tone Yasunao and other musicians. I have worked to clarify the details of the literary/cinematic and other collaborations within the arts movement and the mutual influence therein, and have presented scholarly papers with cross-sectional use of linguistic and visual texts.

研究分野：日本近現代文学

キーワード：日本文学 日本近現代文学 比較文学 戦後文学 映画 表象文化 アヴァンギャルド 前衛芸術

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

## 1. 研究開始当初の背景

(1) 本研究課題名にある「アヴァンギャルド」とは、一般的に革新的・実験的な試みを行う芸術やその担い手たちのことを指し、漢語では「前衛」とも表現される。政治的立場を含意することもあり、その場合は芸術的・政治的な革命を目指す運動を指す。

日本の戦後アヴァンギャルド芸術は近年注目を集めており、音楽では黛敏郎のオペラ『金閣寺』（2015年、原作三島由紀夫）の復活上演が行われ、美術では「Tokyo 1955～1970: A New Avant-Garde」展（ニューヨーク近代美術館、2012-2013）が開催されるなど、ゼロ年代終盤頃から前衛芸術の復権／再利用が著しくなった。

日本における戦後アヴァンギャルドの実態と意義について研究する際、1958年に創設された草月アートセンター以下、草月ACと略記するは極めて重要な位置を占めると考えられる。創設から1960年代を通してアヴァンギャルド芸術運動の震源地と呼ばれた草月ACについては、近年当事者たちによる資料や証言が次々と公開されている\*1。また、これに関わった文学者や美術家に関する研究成果も一定数公表されている\*2\*3\*4。

一方で、アートセンターの母体となった草月から続くコラボレーションとその後の影響を総体的に捉える試みはほぼ手つかずであった。運動の中軸を担った安部公房と勅使河原宏によるコラボレーションですら、複数ジャンルに渡った創作を総合的に分析し、協働とその後の展開までを視野に入れた考察は、基礎研究すら未開拓の部分が残されており、申請者による研究をもってようやく緒に着いたばかりであった\*5\*6。

(2) 本研究は安部公房原作の映画に注釈を試みることから出発した。その後、安部作品を複数回映画化した勅使河原宏監督とのコラボレーションに着目し、文学と映画の比較研究へと展開した。1960年代の主要作品については、草月会館での資料調査に基づいて詳細に論じ、研究成果を単著にまとめることができた\*5。さらに、先行研究が皆無に等しい1970年代以降の協働についても、平成25年度より科研費若手研究(B)の助成を得て取り組み、戦後アヴァンギャルド芸術運動におけるジャンルと国境の横断という巨視的な観点からの考察を進めてきた。その成果の一端として、死蔵されていた協働作品『1日240時間』のフィルムを発見し、デジタル復元を実現した。

本研究課題では、安部と勅使河原に軸を置きつつも、草月ACという場へと視野を広げ、戦後前衛芸術運動における様々な協働だけでなく、その後の影響についても調査と考察を展開することを目指した。その際、未公開フィルムや音声テープのデジタル復元と、それらを基礎資料とした作品分析や伝記的研究も行うこととした。

以上が、研究開始当初の概略的な背景である。

\*1 『輝け60年代 草月アートセンターの全記録』フィルムアート社、2002年

\*2 波瀾剛『越境のアヴァンギャルド』NTT出版、2005年

\*3 鳥羽耕史『運動体・安部公房』一葉社、2007年

\*4 上野俊哉『思想の不良たち』岩波書店、2013年

\*5 友田義行『戦後前衛映画と文学』人文書院、2012年

\*6 鳥羽耕史編（共著）『安部公房 メディアの越境者』森話社、2013年

## 2. 研究の目的

(1) 本研究の目的は、第二次世界大戦後の日本におけるアヴァンギャルド芸術運動において、文学・映画・戯曲等のジャンルを横断した実践がどのように展開されたかを、芸術家たちによるコラボレーション（協働）と、運動解体後も含めた影響関係から究明することにある。特に前衛芸術運動の中心的な場であった草月AC周辺の芸術家たちに照準し、安部公房・花田清輝といった文学者や、勅使河原宏・亀井文夫といった映像作家に注目して、彼らのコラボレーションがどのような表現を生みだし、思想・社会・科学を表象したかを追究する。また、同センターを軸にした協働の解体後も視野に入れ、戦後前衛芸術運動がその後の表現活動にどのような影響を及ぼしていったかを、安部公房・勅使河原宏の創作を中心に考察する。

以上が、本研究の概略的な目的である。より具体的な目的として、次の3点を設定した。

### (2) 戦後日本のアヴァンギャルド芸術における協働の実態を解明

戦後日本のアヴァンギャルド芸術運動を駆動した作家たちが、文学・映画・アニメーション・演劇・音楽・建築・美術といったジャンルを横断しながらどのように協働し、どのような表現を生みだしていったかを、草月および草月ACに集った芸術家たちを軸にして解明する。特に安部公房と勅使河原宏を中心に、様々な芸術家たちによる協働の所産として表現を捉えなおす。

### (3) 草月と草月アートセンターの歴史的意義を解明

前衛芸術運動の震源地と呼ばれた草月ACについては、当事者たちによる資料や証言が近年公開されている。これらを活用するだけでなく、草月会館資料室での一次資料調査を通してセンターの全貌に迫り、その歴史的意義を考察する。その際、安部公房・勅使河原宏に軸を置きつ

つも、花田清輝・武満徹・松本俊夫ら複数作家による協働の効果と意義の解明に注力する。

#### (4) 戦後日本のアヴァンギャルド芸術における協働後の波及的效果を解明

戦後日本のアヴァンギャルド芸術運動において、1970年代の草月ACやその母体でもある組織草月の活動、さらにはアートセンター解体後までの時期を対象に含め、そこで展開された協働の影響がどのように波及したか、射程と実態を解明する。

### 3. 研究の方法

#### (1) 草月での協働を調査・分析(1950年代)

草月会館資料室等での資料調査および製作関係者への聞き取りを行う。加えて、既存の公刊資料や先行研究を調査し、草月におけるコラボレーションの実態を総体的に把握する。

#### (2) 草月アートセンターでの協働を調査・分析(1960年代)

前項に加え、草月会館資料室や同会館附属の元勅使河原プロダクション倉庫で調査を行う。映像フィルムと音声テープのリストを作成し、研究上有益と考えられる分をデジタル復元する。

#### (3) 草月 草月アートセンターでの協働の波及を調査・分析(1970年代以降)

協働の解体後に発表された作品から前衛芸術運動における協働の波及的影響を析出する。

#### (4) 方法上の具体的な工夫

戦後日本の前衛芸術運動を分析するにあたり、その中核にあった草月ACとその母体である草月の両方を対象とすること。また、両運動体で展開された活動を、複数の芸術家によるコラボレーションの観点から考察すること。さらに、草月AC解体後も波及していった協働の影響をも視野に入れること。これらの工夫により、戦後日本の前衛芸術運動とその後の展開という広大なテーマを、より総体的かつ効率的に把握することができる。そのために、継続的な協働に取り組んだ安部公房と勅使河原宏に注目し、両者の協働解体後に発表された『サマー・ソルジャー』『時の崖』といった作品を分析対象に設定する工夫も凝らした。

各作品の分析については、複数作家による協働作品を対象とし、時代的社会的背景の精査を基盤としつつ、テキスト理論に基づき、複数ジャンルを横断した往還的な読解を行う。創作は個人で完結するのではなく、また原作とそこから派生した作品との関係は相互関連的なものであるという視点に立つことで、単独作家・単独ジャンルでの分析では抽出困難であった特異点や、看取困難であった解釈とテキスト機能の独自性を開示できる。翻って、この手法は安部公房や勅使河原宏といった芸術家たちの世界的な普遍性と特質の究明に有効であり、文学・映画・アニメーション等の研究領域にも応用できると考えた。

以上が、本研究の方法である。

### 4. 研究成果

#### (1) 2016年度

一般財団法人草月会にて主に1950年代の資料調査を行った。同会資料室で雑誌『草月』のバックナンバーを通覧するとともに、安部公房や勅使河原宏らの活動を、花田清輝や松本俊夫ら、周辺の芸術家の活動にも視野を広げて再検証した。その結果、先行研究では明らかにされてこなかった様々な未完のプロジェクトが複数存在したことが判明し、本課題が焦点を当てた「協働」の実態が新たに発見された。

また、元勅使河原プロダクションや草月の関係者に聞き取りを行いながら、草月会蔵資料の芸術史的な意義について考察を進めた。特に、勅使河原宏を中心とした映画と、それらと密接に関わる文学との関連については、フィルムや台本を中心に複数の新たな発見が得られた。リストアップしたフィルムのうち、『フィルム・モザイク』『草間彌生』『熊谷守一』についてデジタル化の手続きに取りかかった。

#### (2) 2017年度

前年度からデジタル化の手続きに取りかかった『フィルム・モザイク』『熊谷守一』について、デジタル化とフィルムクリーニング等の作業を完了した(草月会の協力およびIMAGICALab.からの技術提供を受けた)。

一般財団法人草月会にて1950年代以降の資料調査を行った。同会資料室で雑誌『草月人』『草月』『CinemaX』『現代芸術』『SAC』等のバックナンバーを通覧するとともに、安部公房や勅使河原宏らの活動を、周辺の芸術家の活動にも視野を広げて再検証した。花田清輝、亀井文夫、武満徹、針生一郎、黛敏郎、松本俊夫といった文学者・映像作家・作曲家・美術家など、ジャンルを問わず記事や楽譜などを調査した。その結果、先行研究では明らかにされてこなかった様々な未完のプロジェクトが複数存在したことが判明し、本課題が焦点を当てた「協働」の実態がより詳細に見えてきた。中でも勅使河原宏と、土本典昭・草間彌生・熊谷守一との関係については、文学史・映画史・美術史的にも大きな意義を見出すことができる。

また、元勅使河原プロダクションや草月の関係者に聞き取りを行いながら、草月会所蔵資料の芸術史的な意義について考察を進めた。特に、勅使河原宏を中心とした映画と、それらと密接に関わる文学との関連については、フィルムや台本を中心に複数の新たな発見が得られた。映画『サマー・ソルジャー』のシナリオや制作関係者についても調査を進めた。

### (3) 2018 年度

一般財団法人草月会資料室で、主に 1950～60 年代の資料調査を行った。雑誌『SAC』『現代芸術』『季刊フィルム』等のバックナンバーを通覧するとともに、草月アートセンターでの講演や演奏の記録を視聴した。そして安部公房や勅使河原宏らの活動を、周辺の芸術家との協働にも視野を広めて再検証した。その結果、特に刀根康尚や一柳慧ら音楽家たちの創作と、映画や美術といった他ジャンルとの共鳴関係が見出された。

また、勅使河原宏が撮影した草間彌生のパフォーマンス・フィルム『草間彌生』をデジタル化し、視聴・分析できる状態にした(草月会の協力および IMAGICALab. からの技術提供を受けた)。その結果、勅使河原宏監督が表現者、特に前衛芸術家を一貫してモチーフにしていたことが明瞭となった。勅使河原宏の新資料の意義や、安部公房の初期短編を原拠との比較から考察した研究発表を、諸学会で行った。また、安部公房と勅使河原宏が協働で制作した映画『1日 240 時間』について、デジタル化の経緯と作品分析を行った論考を、単行本収録の論文として発表した。

### (4) 2019 年度

勅使河原宏監督映画『サマー・ソルジャー』、安部公房原作/監督映画『時の崖』に、草月アートセンターでの協働がどのような影響を及ぼしているかを考察するべく、草月会資料室で調査を行った。二人のコラボレーションが解体した後の作品であるにも拘わらず、互いの表現特質やテーマ、実験的試みが変奏されつつも共有され続けていることを探った。さらに、同時代のベトナム反戦運動との思想的関連も調べた。ただ、新型コロナウイルス禍の影響によって予定した出張の一部を断念し、調査に支障も生じた。

具体的成果として、勅使河原宏と土本典昭の交流を示す新資料を発見し、これを基に勅使河原の作家的特性をメディアとの関連から考察した論文を発表できた。加えて、以前にも論じた安部公房・勅使河原宏の映画『砂の女』を、その後の調査・考察を追加して、アダプテーションの観点から再論した論考も論文にまとめることができた。勅使河原宏の息女と、戦後前衛運動に参画した作曲家とのインタビュー記事の編集にも携わるなど、様々な方面で戦後前衛芸術運動の研究に寄与することができた。



\*7 『フィルム・モザイク』フィルム缶外観



\*8 『熊谷守一』同左

一般財団法人草月会所蔵

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 0件／うち国際共著 2件／うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 勅使河原季里・刀根康尚・友田義行（編集協力）	4. 巻 340
2. 論文標題 草月アートセンターの記録 刀根康尚氏にインタビュー	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 草月	6. 最初と最後の頁 74-77
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する
1. 著者名 友田義行	4. 巻 27
2. 論文標題 映画監督・勅使河原宏論のための基層的研究 草月会所蔵フィルム調査の意義	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 信大国語教育	6. 最初と最後の頁 1-10
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） AN10466532	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 友田義行	4. 巻 19
2. 論文標題 文学と映画のアダプテーション - 安部公房と勅使河原宏の作品を読む／観る -	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本文学文化	6. 最初と最後の頁 1-15
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 勅使河原季里・一柳慧・友田義行（編集協力）	4. 巻 341
2. 論文標題 「草月アートセンターの記録」 一柳慧氏にインタビュー	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 草月	6. 最初と最後の頁 74-77
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

〔学会発表〕 計7件（うち招待講演 3件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 友田義行
2. 発表標題 勅使河原宏監督の新資料に関する報告
3. 学会等名 立命館大学日本文学会第153回研究例会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 友田義行
2. 発表標題 安部公房のアダプテーション 「魔法のチョーク」の変形
3. 学会等名 日本比較文学会関西支部研究例会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 友田義行
2. 発表標題 『1日240時間』上映と研究発表「前衛と伝統」
3. 学会等名 善光寺平前衛派（信州大学教育学部発合同エキシビション2018）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 友田義行
2. 発表標題 文学と映画の比較断章法
3. 学会等名 三島由紀夫とアダプテーション研究会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 友田義行
2. 発表標題 安部公房と勅使河原宏の協働について
3. 学会等名 九州大学比較社会文化学府 言語・メディア・コミュニケーションコース講演会（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 友田義行
2. 発表標題 『砂の女』を読む／観る - 安部公房と勅使河原宏の協働
3. 学会等名 東洋大学日本文学文化学会2019年度大会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 友田義行
2. 発表標題 勅使河原宏の実験映画
3. 学会等名 善光寺平前衛派（信州大学教育学部発合同エキシビジョン2019）
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 丹羽美之・吉見俊哉編	4. 発行年 2018年
2. 出版社 東京大学出版会	5. 総ページ数 320
3. 書名 戦後史の切断面 公害・若者たちの叛乱・大阪万博（記録映画アーカイブ3）	

1. 著者名 鳥羽耕史・山本直樹編	4. 発行年 2019年
2. 出版社 森話社	5. 総ページ数 352
3. 書名 転形期のメディアロジー ―一九五〇年代日本の芸術とメディアの再編成	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>researchmap  <a href="https://researchmap.jp/tomoda-yoshiyuki">https://researchmap.jp/tomoda-yoshiyuki</a>  信州大学学術情報オンラインシステムSOAR研究者総覧  <a href="http://soar-rd.shinshu-u.ac.jp/profile/ja.OCLC0pkh.html">http://soar-rd.shinshu-u.ac.jp/profile/ja.OCLC0pkh.html</a></p>
--

6. 研究組織		
氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考